

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

交通安全の手引き

令和 8 年 9 月 1 日
在ハンガリー日本国大使館

目 次

第 1 章 ハンガリーでの運転に関する Q & A

第 2 章 基本的交通規則

- 1 運転の際、携行しなければならないもの
- 2 シートベルトの着用義務
- 3 チャイルドシートの使用義務
- 4 昼間点灯の義務
- 5 冬タイヤの装着と雨氷
- 6 制限速度
- 7 追越し
- 8 交差点の通行方法
- 9 ランドアバウトの通行方法
- 10 バスレーンの通行と駐停車の禁止
- 11 ترامの軌道敷内の通行方法
- 12 踏切の通行方法
- 13 駐車
- 14 飲酒運転の絶対禁止
- 15 携帯電話の使用禁止
- 16 高速券：バーチャル高速券（E-Vignette）

第 3 章 交通事故と交通違反取締り

- 1 人身事故の処置
- 2 物件事故の処置
- 3 交通違反で取締りを受けた場合の処置

第 4 章 自転車の運転

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

第1章 ハンガリーでの運転に関するQ&A

これまでに在留邦人の皆様から当館に実際に寄せられた質問をQ&A形式で紹介します。

【問1】日本の運転免許証を持っていれば、ハンガリーで運転できますか。

日本の国際運転免許証を取得すれば運転が可能です。運転の際は、日本の運転免許証と国際運転免許証の両方を携帯しなければなりません。

【問2】ハンガリーの運転免許証に切り替えたため、手元に日本の運転免許証がありません。一時帰国中に日本で運転したいのですが、ハンガリーの運転免許証と国際運転免許証があれば運転できますか。

ハンガリーのジュネーブ条約に基づく国際運転免許証があればできます。

日本でハンガリーの国際運転免許証を利用されるご予約の方は、ジュネーブ条約に基づく国際運転免許証をハンガリー国内の最寄りの行政窓口申請するようにしてください。

【問3】ハンガリーの運転免許を取り消された場合、日本の免許からもう一度切り替えることができますか。

できません。

ハンガリーの運転免許を取り消された場合、自動車教習所において、運転免許を取り消された人専用の講習を受ける必要があります。

講習修了後、筆記・実技試験と適性検査に合格すれば、運転免許証が再度取得できます。ハンガリー語が話せない人は、講習や試験の際、自費で通訳を雇うことができます。

第2章 基本的交通規則

1 運転の際、携行しなければならないもの

(1) 運転免許証

(2) 車両登録証

日本でいう車検証であり、登録番号、登録日、所有者、車種、車体番号、重量、次の車検の期限等、車両に関する基本情報が記載されています。

車両が盗まれた場合、警察への届け出や保険請求の際に必ず必要になります。車ごと盗まれてしまわないよう、車内で保管しないで下さい。



本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

(3) 強制保険証書（国内用）

日本の自賠責保険に相当し、加入が義務付けられています。日本と同じく、補償には限度額があり、加害者側の死傷や車の損害は補償されません。

日本と異なり、被害者の対人賠償だけでなく対物賠償も含みます。

(4) 強制保険証書（外国用：通称Green Card）

外国で事故を起こした場合の保険請求に必要です。

加害者が被害者に対し、copyと書かれた半券を切り取って渡さなければなりません。



(5) 事故報告書（European Accident Report）

国内外を問わず、事故現場で作成します。

当事者A・Bとありますが、どちらがA・Bでも構いません。複写式になっており、1枚目と2枚目を当事者で分け合います。誰がどちらを持っても効力は同じです。

当事者全員の署名のないもの、交付後に改変されたものは無効です。



(6) 三角表示板

(7) 救急箱

新車を買った場合は、三角表示板と共に備え付けられています。中身の有効期限は3～5年ですので、それを経過すれば買換えが必要です。

(8) 反射ベスト

車の故障や事故のため車外に出る場合、着用が義務付けられています。ドライバー用に最低1着は車に備え付けなければなりません。

2 シートベルトの着用義務

日本と同じくハンガリーでも、全ての座席でシートベルトの着用義務があります。

妊娠中の方も着用義務があります。

疾病のため、シートベルトを着用することが療養上適当でない人は、医師の診断書があれば着用を免除されます。この場合、診断書に必ず「有効期限」が明記されていなければなりません。

タクシーの乗客も着用義務があります。

市街地を走る路線バスでは、着用義務はありません。一方、長距離バスでは着用義務がありますが、乗客用シートベルトがないバスでは当然着用義務はありません。ただし、スクールバスについては、乗客用シートベルトの設置と着用が義務付けられています。

ハンガリーでは違反点数に加え、反則金を科されます。日本との違いは、次の2点です。

(1) 違反場所により反則金の額が異なる。

(2) 違反乗員の数だけ反則金が科せられる。（運転者のみ）。

3 チャイルドシート及びブースターシートの使用義務

ハンガリーでは、子供を同乗させる時、チャイルドシート又はブースターシー

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

ト（以下、「チャイルドシート類」）の利用が義務付けられています。そのいずれを使うかについて法律上の規定はなく、子供の発育状況や体格を考慮して親が判断します。

4 昼間点灯の義務

夜間やトンネル内、濃霧等により視界が暗くなった場合にライトの点灯義務があります。

ハンガリーでは、昼間や視界が良い場合であっても、郊外のライト点灯が義務付けられています。

郊外とは、市町村が終わるといふ標識（写真上）から市町村が始まるといふ標識（写真下）までの区域です。逆に市街地で昼間にライトを点灯しても違法ではありません。

欧州連合（EU）は、2011年2月7日以降に製造される乗用車への昼間用ヘッドライト（以下、「デイライト」）の装備



を義務化しました。デイライトとは、光量を昼間用に抑えた専用のライトで、エンジンを始動させると自動的に点灯します

通常のライトが暗い夜道を照らすためのものであるのに対し、デイライトは周囲からの視認効果を高めるためのものです。この機能を備えた車両を昼間に運転する場合、郊外や高速道路で夜間用ライトを点灯する必要はありません。

しかし、夜間に運転する場合、デイライトだけでは光量不足ですし、尾灯（テールランプ）も点いていませんので、必ず夜間用ライトを点けて下さい。

5 冬タイヤの装着と雨氷

ハンガリーでは、冬タイヤの装着は義務ではありませんが、警察はそれを推奨しています。一方、周辺国でも若干の交通ルールが異なるところ、渡航先の国の交通警察関係のHP等をご確認ください。

冬場、ハンガリーでは、雨氷（ónos eső）に注意しなければなりません。雨氷が予想される場合、天気予報で注意を呼び掛けています。

雨氷とは、過冷却の雨粒が路面に付着した際、その衝撃で瞬時に結晶となった氷のことで、日本ではほとんど見られません。路面に滑らかな氷の層ができるため、大変滑り易くなります。雨氷に対しては冬タイヤもチェーンも無力であり、制動距離は晴天時の約10倍とされています。

6 制限速度

制限速度は場所により、4種類に大別されます（以下は乗用車の例）。

- （１）市街地：時速50km
- （２）郊外：時速90km
- （３）自動車専用道路：110km
- （４）高速道路：130km（最低速度は60km）

これらは原則ですので、標識等で個別に指定があれば、それに従って下さい。

7 追越し

追越し禁止場所は日本と同じです。右側からの追越しは禁止です。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

交差点とその30m手前での追越しは禁止されていますが、ハンガリーでは左折レーンを交差点での追越しに使うドライバーがいるので要注意です。

8 交差点の通行方法

(1) 信号機の設置された交差点

信号のサイクルは、「赤→黄→青→黄→赤」であり、赤から青に変わる時、赤と同時に黄色も点灯します。これは「発進準備」の意味で、まだ発進してはいけません。

黄色信号の意味は、赤と同じく「停止」であり、「車両が安全に停止することができない場合、交差点を素早く通行しなければならない」との例外規定があります。「安全に停止できない場合」とは、急停止することでスリップしたり、後続車に追突されるおそれがある場合です。

ハンガリーに赤の点滅信号はありません。「交差点で自分の進行方向の信号が黄色の点滅だから、交差道路の信号は赤の点滅のはず（＝相手に一時停止義務がある）」と思って油断していると、思わぬ事故につながる可能性があります。

停電や故障で信号機が作動していない場合も、優先関係は標識に従ってください。

(2) 優先関係に関する標識のある交差点

ハンガリー人は、優先関係に殊のほか敏感ですので、信号機のない、又は信号機があっても作動していない交差点では、標識により誰に優先権があるのか瞬時に判断する必要があります。

優先道路を走行中に交差点で急に減速や、一時停止すると、後ろから追突されるおそれがあります。交差点では、誰に優先権があるのか常に意識して下さい。

優先関係に関する標識のある交差点においては、非優先側には必ず非優先の標識がありますが、優先側に優先を示す標識がない場合があります。自分が今いる道路に入った時、非優先又は一時停止の標識があったならば、その道路は優先道路ということです。

次ページ表は優先関係を表す標識の一部です。標識5の意味を「一時停止」と誤解している人がいますが、この標識は交差又は合流する前方の道路が優先道路であることを意味しています。よって、左右から車両が来ていないことが明らかな場合は一時停止する必要はありません。

また、標識5は、高速道路の合流車線にも設置されています。「本線通行車両が優先」を意味していますが、意味を間違えて一時停止していると、後続車に追突される可能性があります。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

区 分	自分が優先			相手が優先		
番 号	1	2	3	4	5	6
標 識						
意 味	優先道路	前方で非優先道路と交差	前方で非優先道路と合流	一時停止	交差又は合流する前方の道路が優先道路	前方に、右から来る車両が優先の交差点あり

(3) 信号機や優先権に関する標識のない(＝交通整理のない)交差点

ハンガリーでは、交通整理のない交差点においては、**自車から見て右から来る車両が優先**です。

自転車も車両ですから、交通整理のない交差点で右から自転車が来れば、自転車に優先権があります。

この規則は徹底されており、信号機や優先権に関する標識のない交差点では、通常、自分の右方向だけをしっかりと確認し、左はろくに見ていません。左から来る非優先車両が優先関係を無視して交差点に進入した場合、接触・衝突する確率が高くなります。

9 ラウンドアバウトの通行方法

欧州では、交通の円滑化と安全面、コスト面で、信号機のある交差点より優れているとして、広く普及しています。

ラウンドアバウトは、中を通行している車が優先です。中に車がいる場合は、入口で徐行又は一時停止により、やり過ぎさなければなりません。

別々の入口から同時にロータリーに入ろうとしている車がある時は、自分から見て左側の車が優先です。

出口の手前でウインカーを出す義務があります。

ラウンドアバウトの出入口には、横断歩道が設けられている場合があります。**ラウンドアバウトに出入りする際は、歩行者にも注意が必要**です。

10 バスレーンの通行と駐停車の禁止

バスレーンは、ブダペスト市だけでなく、路線バスが運行している他の都市にも設置されています。

バスレーンを通行してよいのは、路線バス、タクシー、バイク及び緊急走行中(サイレンを鳴らし青色灯を点灯)の緊急車両だけです。

標識等で個別に指定のある場合を除き、一般車両に加え、二輪車や自転車の通行も認められていません。

路線バスが運行していない深夜・早朝も、一般車両はバスレーンを通行してはいけません。

交差点にある程度接近した時点で、バスレーンは一般車の右折レーンに切り替わります。具体的に交差点の何m先から進入可という規則はありません。交差点の数十m手前から車線の境界線が実線から破線になっているほか、「バスレーン終わり」の標識があるので、その地点から右折のための車線変更が可能です。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

1 1 トラムの軌道敷内の通行方法

ハンガリーでは、

- ① 周囲の見通しがよく、トラムの接近を容易に認識できる
- ② トラムの通行を邪魔しない

という2つの要件を満たせば、車両も軌道敷内の通行が原則可能です。

(2) 路面表示による進入規制

写真1は、片側1車線の道路です。周囲の見通しがよく、トラムの通行を妨げていないため、車両は軌道敷内の通行が許されます。

写真2は、片側2車線の道路で、左側車線にはトラムの軌道敷があります。車線変更可能な路面表示（白の破線の車線境界線）があるので、車両は軌道敷内を通行可能です。

道路の中央線は白の実線ですが、「中央線」と「はみ出し禁止」を強調するため2本線になっています。よって、道路の左側部分（逆方向から来るトラムの軌道敷内）へのはみ出しは禁止されています。

写真3は、路面表示（白の実線の車線境界線）と縁石によるはみ出し禁止（軌道敷内進入禁止）場所です。

トラムの軌道敷内へのはみ出し禁止の路面表示は、それを強調するための縁石とセットになっている場合がほとんどです。



1



2



3

(3) 標識による進入規制

写真4では、車両はこの直前まで軌道敷内を通行可能なのですが、ここから先は通行不可ですので、トラムの軌道ではない車線を通るよう指示しています。

写真5は、片側2車線の道路脇に設置されている標識です。100m先からはバスとトラムを除き、左側車線を走ってはならないと指示しています。

この様に、一般車両は通行不可な一方、バスだけはトラムの軌道敷内を通行してよい道路がいくつかあります（マルギット橋はその典型です）。「軌道敷内をバスが通っているから、他の車両もそこを通行可能」とは必ずしも言えませんので、標識をよく確認して下さい。

写真6では、片側2車線ですが、左側車線はトラムしか通行できないことと、右側車線は車幅が2mを超える車両が進入できないことを指示しています。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。



4



5



6

1 2 踏切の通行方法

ハンガリーでは、踏切通行前の一時停止は義務ではありません。踏切における一時停止の義務がないだけで、安全を確認する義務があるのは世界共通です。

ハンガリーの電車の踏切は、各種安全装置の有無に応じて分類されています（警報器がある踏切はほとんどありません）。

「標識しかない踏切だから、電車は滅多にこない」と思って安全確認を疎かにすると、思わぬ事故につながる可能性があります。

信号機がある踏切の場合、白色が点滅していれば通行可能です（写真1）。赤が点滅すると、しばらくして遮断機が下り始めます（写真2）。まだ遮断機が下りていないからといって、赤信号で踏切に進入してはいけません。

ハンガリーには、電車の踏切の存在を知らせる便利な標識があります（右図）。斜線の数
が少なくなるほど、踏切に近付いているという
意味です。



電車と違い、トラムの踏切に信号や遮断機等の安全装置が備えられているケースは稀です。通常、一時停止標識か黄色の点滅信号がありますが（写真3）、そのいずれもない踏切がいくつか存在します。



1



2



3

1 3 駐車

（1）原則

指定駐（停）車禁止場所も、法定駐（停）車禁止場所も日本と同じです。

駐車してよい場所には、有料と無料の2種類があります。補助標識によって料金や駐車方法に関する情報が提供されていますので、駐車する際によく確認して下さい。

（2）路上駐車に関する注意点

駐車違反の取締権限は、警察官のほか、市町村の駐車監視員（公務員）にもあります。駐車券は、ダッシュボードの見やすい位置に掲示して下さい。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報を用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

路上の駐車料金は、基本的に平日の昼間は有料、夜間及び休日は無料です（「昼間」の定義は標識で個別に表示）。ただし、振替勤務日となる土曜日は平日扱いです。（駐車場に駐車する場合には、曜日に関係なく、有料の場合がありますので、ご注意ください。）

無料で駐車できる時間帯の駐車時間制限はありません。

一例として右標識の意味は、

有料駐車区間

月～金：8～18時

最大駐車時間：3時間

支払いは券売機

です。

「車輪止め装着区間」の標識は単なる警告ではなく、車輪止め措置は実際によく見かけます（右写真）。

反則金処理にするか、反則金に加え車輪止めも装着するかは取締担当者の判断次第で、明確な基準はありません。



1 4 飲酒運転の絶対禁止

「何人も酒気を帯びて車両等を運転してはならない」のは、ハンガリーも同じです。一口でも酒を飲めば、運転してはいけません。

1 5 携帯電話の使用禁止

ハンガリーの道路交通法は、「運転手は、運転中に手に持った携帯電話を使ってはならない」と規定しています。

「携帯電話の使用」には、メールの送受信やインターネットの閲覧も含まれると解釈されており、警察の取締対象です。

1 6 高速券：バーチャル高速券（E-Vignette）

ハンガリーでは、「バーチャル高速券（E-Vignette）」が導入されています。

利用者が高速道路の料金を支払うと、車種（5種類のカテゴリー）、有効期間及び登録番号が電磁的に記録されます。高速道路会社が設置した監視カメラが通行車両の車両登録番号を読み取り、データベースとの照合により、料金支払の有無、有効期限及び車種を調査します。

高速道路会社が料金未払車両を発見した場合、車両の所有者宛てに支払督促状と払込票を郵送します。

イ 高速券の買える場所

ガソリンスタンドで購入可能です。このほか、携帯電話のSMSやインターネット経由でも買えますが、車種と有効期間は車種によって異なります。詳しくは同社のHP（<http://www.motorway.hu/>）をご覧ください。

国境付近のガソリンスタンドでは、ハンガリーだけでなく、外国の高速券（ステッカー）も買うことができます。

ハンガリーでは、有効期間1年の「県内高速券（Regional Vignette）」が導入さ

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

れています。県内高速券は県外の最初の分岐点までが有効となっておりますので、ご注意ください。

(<http://toll-charge.hu/articles/article/e-vignette-information-and-purchase>)

ウ その他

何らかの手違いで、料金を支払ったにもかかわらず督促状が届くケースが稀に発生します。念のため、領収書は1年間保管して下さい（1年経過すると高速道路会社の請求権が消滅するため）。

有料区間の開始地点には標識があります（右写真）。

全ての高速道路が有料ではありません。詳細は上記HPでご確認下さい。



第3章 交通事故と交通違反取締り

1 人身事故の処置

(1) 負傷者の救護

負傷者の救護が最優先です。救護義務は被害者側にもありますので、自分は被害者側だから何もしなくていいということにはなりません。応急手当をしつつ、必要なら救急車を呼んで下さい。

EU加盟国内の共通の緊急通報の番号は「112」です。、警察、消防、救急に連絡する必要がある場合には、112番に電話すれば事足りるという制度です。

被害者が軽傷の場合、道路から安全な場所に移動させます。後続車による追突の危険性がある場合を除き、重傷者や頭を打っている人をむやみに動かしてはいけません。

幹線道路や高速道路脇には、緑の数字板があります（右写真）。上り車線では数字が減少し、下り車線では増加します。この数字板は、道路の起点から1km毎の距離を表したキロポストです。



112番のオペレーターには、①路線名、②上り・下りの別、③キロポストの数字を伝えて、事故の場所を特定して下さい。

高速道路上に約2km毎に設置された非常電話を使って事故の通報をすることも可能です（呼出ボタンを押して、道路管理会社のオペレーターと通話）。

(2) 二次事故の防止

警察による実況見分のための現場保存よりも、目の前の危険（二次事故）防止が優先です。

車両は、ハザードランプを点灯させて路肩等の安全な場所に移動させて下さい。

後続車に事故の発生を知らせるため、車両後方に三角表示板を置いて下さい。

車内に備付けの反射ベストを必ず着用して下さい。

事故車両の前後と車道側に絶対に立ってはいけません。

(3) 警察への通報

負傷者の救護と二次事故の防止策が一段落したら、警察に連絡して下さい。

救急車を呼んでいれば、警察にも事故の通報は転送されることから、再度112番に掛ける必要はありません。

(4) 保険会社への連絡

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

2 物件事故の処置

二次事故の防止については、人身事故と要領は同じです。

当事者全員に怪我がなく、事故の責任（誰が悪いのか）について当事者間で合意できた場合、警察を呼ぶ義務はありません。しかし、保険会社は、後になって
もめた場合に備え、警察を呼ぶことを推奨しています。

事故の責任について合意できない場合は、警察を呼んで下さい。また、相手に
飲酒運転の疑いがある場合も同じです（飲酒の事実は、過失割合の認定に大きく
影響します）。

当事者が事故の責任について合意できない場合でも、事故報告書（European Accident Report）は必ず作成・署名しなければなりません。この場合、当事者双方の主張を報告書に盛り込んで、それぞれの保険会社に提出します。

可能であれば、カメラや携帯電話で事故現場の状況について写真撮影して、事故報告書に添付して下さい。

3 交通違反で取締りを受けた場合の処置

交通違反で取締りを受けた場合、違反種別に応じて行政点数が科されるとともに、反則金を支払わなければなりません。反則金は、振込票を用いて、指定期日までに支払います。

なお、取り締まりを受けた際にその場でカードで反則金を支払うことも可能です。但し、偽警察による詐欺などが疑われるなど不審な場合には、担当警察署の連絡先を聴取しつつ、払込票を受け取り、後日警察に確認することをお勧めします。

第4章 自転車の運転

1 自転車と交通事故

ハンガリーでも、道路交通法上の自転車の位置付けは車両ですので、乗用車と同レベルの安全運転が求められます。

2 ヘルメットの着用

二輪車と原付にはヘルメット着用義務がありますが、自転車にはありません。

3 反射ベストの着用義務

郊外では、常時着用義務があります。逆に市街地では、着用義務はありません。

4 通行場所

自転車専用道路や自転車専用通行帯があれば、そこを通行しなければなりません。それらがない場合、道路の右端を通行します。

バスレーンは通常道路の最も右側にありますが、自転車通行可の標識や路面表示
がない限り、バスレーンを走ってはいけません。

時速10km以下の速度で歩行者の通行を妨げない場合、歩道を通行できます。

5 並進の禁止

一般道と歩道では自転車は並進できませんが、自転車専用道路では可能です。

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

6 ライト点灯

乗用車と同様、夜間及び視界が悪い場合に、ライトの点灯義務があります。ただし、郊外での昼間点灯の義務はありません。

7 手信号の義務

自転車に限らず、方向指示器の付いていない車両は、手信号で方向変換の意図を指示しなければなりません。

周囲をよく確認後、右図のとおり、曲がりたい方向に腕を水平に伸ばし、合図します（出典：ハンガリー国家警察HP）。



8 交差点とラウンドアバウト

乗用車と同様、信号と標識に従います。

交差点での2段階左折は可能ですが、義務ではありません。

片側1車線の道路を左折する時は、交差点で道路の中央に寄らなければなりません。後方の安全をしっかりと確認した後、手信号で左折の意思表示をして下さい。後続車の運転手とアイコンタクトを取り、後続車がこちらの左折の意図を理解したか確認しましょう。

片側2車線以上の交差点を左折する時は、交差点の手前で道路の右端から左に車線変更を繰り返し、左折レーンに移動する必要があります。この動作は大変難しいので、複数車線の場合は2段階左折をお勧めします。

交差点を曲がりきった後は、再び道路の右端に戻ります。

ラウンドアバウトは進入可能です。

9 道路の横断

日本と同様、自転車横断帯が併設されている場合は、自転車から降りて押さなければなりません。

横断歩道に自転車横断帯が併設されている場合、そこなら自転車に乗ったまま通行できます（写真上）。

歩行者用横断歩道は、歩行者に優先権があり、自転車を含む車両は、横断歩道の手前で一時停止しなければなりません。一方、自転車横断道（写真下）では車両が優先ですので、車両が自転車横断道の手前で一時停止する義務はありません。



10 定員外乗車の原則禁止

2人乗りは禁止です。ただし、16歳以上の者が10歳未満の者を乗せることはできます。

2人乗りする場合も、運転者や同乗者にヘルメット着用義務はありません。また、同乗者の台座の固定場所や乗車定員に関する規定はありません。

11 飲酒運転・一方通行の逆走・運転中の携帯電話使用の禁止

12 傘差し運転の禁止

本資料の情報の正確さについては万全を期しておりますが、当地の法律・規則が変更されている可能性もございます。在ハンガリー日本国大使館は利用者が本資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

欧州では一般的な行為ではないことから、傘差し運転自体を明文で禁止した条文はありませんが、危険なのでやめましょう。

13 音楽を聴きながらの運転

携帯音楽プレーヤーで音楽を聴きながら運転するのは危険なのでやめましょう。